

[課題図書及び活動]

担当教員	垣見 修司	所属	文学部国文学科
テーマ	万葉集から風土と自然および文化的景観を考える		
活動期間	<p>2024年3月15日(金)～2024年6月13日(木)</p> <p>3月15日(金) 1.2 講時(今出川) 概要説明、活動のねらいと計画、自己紹介</p> <p>3月-5月13日 課題図書の味読</p> <p>3月24日(日) 奈良県明日香村散策(日帰り)</p> <p>4月20日(土)1.2 講時(今出川) 身近な万葉植物観察</p> <p>5月大型連休 身近なゆかりの土地を調査・訪問(各自課題)</p> <p>5月25日(土)3.4 講時(今出川) 各自課題の報告とこれまでのふりかえり</p> <p>6月1・2日(土・日) 臨地研修(富山県)※一泊二日予定</p> <p>6月13日(木)5・6 講時(今出川)※予定 臨地研修と活動のふりかえり</p>		
活動のねらい	<p>□活動のねらい</p> <p>現存最古の和歌集である『万葉集』には、約四五〇〇首もの和歌が収められている。万葉の歌には、奈良時代までの古代日本を生きた人びとの思いが表現されるとともに、紡がれたことばには経験や観察から得られた当時の“知”が反映されている。歌われた環境や情景を的確に把握するためには、万葉びとが日々のいとなみの中で歌に詠んだ自然や風景を追体験することが近道となる。今に残る万葉ゆかりの土地や植物に実際に接することで、歌の理解は深まる。この活動では、読書によって触れた歌の世界を現実の世界で経験し、発見する取り組みを、一つのねらいとしたい。</p> <p>また、万葉の歌は、数多くの地名を詠み込む。歌われた土地は全国に分布し、現在においても歌そのものがそれぞれの地域のルーツをたどるための重要な史料として、各地の人びとやコミュニティの文化的アイデンティティを支える役割を果たしている。そうした今に生きる人びとと万葉とのつながりも考えたい。文学は社会から遊離したものではなく、社会との関わりの中から紡がれていくものであり、さらに社会に影響を及ぼしていくこともできるものであることを、万葉を通じて学ぶことがねらいである。</p> <p>※このセッションは、6期生のほか5期生の希望者が参加します。</p> <p>※このセッションは、宿泊を伴う学外での活動を行います。</p> <p>□活動の流れ</p> <p>(1) 第1回学習 3月15日(金) 活動のねらいと計画を説明する。日本の歴史や文学と土地の結びつきについて考え、活動のきっかけをつかむ。</p> <p>(2) 第2回 現地見学 3月24日(日)</p>		

	<p>万葉のふるさと明日香村を訪問し、万葉集が観光や文化振興に活用されている実例を見学する。具体的な訪問地としては、奈良県立万葉文化館、犬養万葉記念館、甘檜の丘等を予定。</p> <p>(3) 第3回 4月20日(土) 今出川キャンパスに植えられている身近な植物について、万葉集ではどのように詠まれているかを実際の植物を観察しながら学ぶ。</p> <p>(4) 5月大型連休 万葉にゆかりのある身近な土地を訪ね、知見を深めたい。各自の興味にもとづいて課題図書に示された風土を実際に体感してほしい。(各自課題)</p> <p>(5) 5月25日(土)3.4 講時(今出川) 大型連休中の課題報告と中間ふりかえり</p> <p>(6) 6月1・2日(土・日)臨地研修 万葉のふるさと富山県高岡市を訪問し、万葉集をよりどころとする歴史と町づくりを見学する。</p> <p>(7) 6月13日(木)5・6 講時 臨地研修をふりかえり、訪問地における万葉に関わる取り組みの意義とその問題点について討議する。万葉集をはじめとする文学作品のコンテンツとしての可能性と、これからの課題を考える。</p> <p>□事前課題 課題図書をはじめとする入門書や関連図書を読み、自身の知見を深めておく。</p> <p>□事後課題 一連の活動の報告と取り組みを通じて深めた考えをレポートにまとめ、事務局に提出する。</p>
課題図書	改訂新版 万葉の旅(全3巻)平凡社ライブラリー
図書情報	<p>犬養孝著、平凡社、2003年 ISBN-13: (大和) 上巻 978-4582764833 ISBN-13: (山陽・四国・九州・山陰・北陸) 下巻 978-4582764949 上巻は3月の訪問地。下巻は6月の臨地研修訪問地を含む。</p> <p>※中巻は推奨図書 ISBN-13: (近畿・東海・東国) 中巻 978-4582764895</p>